

# 岩手農大 同窓会会報

題字は伊藤前会長

第 19 号  
平成 24 年 3 月 1 日

発行・編集

岩手県立農業大学校同窓会  
岩手県胆沢郡金ヶ崎町蟹子沢14 TEL0197-43-2211



## 同窓会活動の充実に向かって

岩手県立農業大学校同窓会

会 長 阿 部 時 男

今年度の総会において会長に推薦されました紫波支部所属の阿部時男であります。

大役ではございますが私なりに努力して参りますので、叱咤激励のほどよろしく願いいたします。

総会終了後の吉日に、伊藤前会長さんから職務の引き継ぎがありました。この会の一番の課題は、支部組織の体制整備だと言われました。組織体制が整っていなければ活動も停滞するということになるとのことでした。

本会の会員は、複数の勉学組織修了者から成り立っており、一般的な学校同窓会とは異なり、支部としてどう組織化すればよいか考えあぐねているところがあるのではないのでしょうか。かつては、普及所単位に組織化され、同窓会出身普及員が事務局を担当しておりましたが、現在はその体制が崩れてしまいました。時代の変化に対応しきれないでいる組織があるということでしょう。

会員が同窓会に期待することは、自分のためにも、地域発展のためにも互いに協力し活動しあうことのできる「場」を作って欲しい

ことではないでしょうか。その「場」づくりは、本部は本部なりに、支部は支部なりにあると思うので、みんなで考えていきたいと思えます。互いに情報を交換しながら「不行不至」の気持ちで前進したいものです。

本部事務局は、今年度支部毎に会員名簿を作成し各支部に配布しました。各支部では、この会員名簿と現役員名簿から組織再編委員会を立ち上げ検討されることを望みます。本部では、支部組織再編化のための援助協力のあり方を検討し対応していきたいと思えます。

紫波町では、OB有志3人が平成12年8月に会の活性化について話し合い、OB有志による「昔を偲ぶ会」を主催し、会の活性化と会員名簿作りを話題にし、実施に取り組みました。平成14年8月頃には矢巾町の有志にも声をかけ、紫波支部のあり方をも検討し、支部会員数が多いことなどから、町毎の分会方式を取り入れることにしました。紫波町分会は平成15年11月に、矢巾町分会は平成16年11月に再編設立し、分会活動主体で今日に至っています。



同窓会会報に寄せて

## ～ 本年度を振り返って ～

岩手県立農業大学校

校長 川 嶋 明 澄

東日本大震災・津波から1年を迎えようとしており、被災地の皆さま、県内外の多くの方々により復旧・復興に向けた取組みが進められております。

当校におきましても震災直後から、学生と職員が力を合わせ被災地支援に当たってきており、陸前高田市広田地区の営農組合に対する「広田地区復興支援プロジェクト」をはじめ、農大農産物の提供を通じての「大船渡市復興応援なんでも市」への参加、さらに、県内花き生産者の皆さんとの連携による「宮古花壇苗定植ボランティア」など、今後の復興を担う学生諸君にとって何よりの経験であったものと考えております。

こうしたなかであって昨年12月には、多忙を極められる達増知事にご来校のうえ「いのちを守り 海と大地と共に生きる ふるさと岩手・三陸の創造」と題して本県の復興計画を中心に講話をいただき「農業は食で人の生命を支える産業であり、様々なニーズに応えられる産業である。今年感じたことを大切にそれぞれの道をしっかり進めば、稔りある学生生活となり、将来へ歩みを進めていける。」との激励をいただきました。

また、本年度の「農業創造シンポジウム」では、県内でご活躍の同窓生である二戸市の農事組合法人の五日市亮一組合長、JA岩手中央の横澤勲園芸特産課長のお二人からの基調講演とともに、同じく同

窓の花巻市の阿部匠氏、奥州市の教江與嗣典氏に加わっていただき、学生諸君も交えての活発なパネルディスカッションとなり、在校生を大いに触発する有意義な時間となりました。

さらに先輩からは、「夢を持って大いに語らい、卒業後もつながる仲間づくりをしてほしい」とのメッセージをいただきました。

学生の進路については、本年度から進路指導担当職員を配置するなどこれまでも増して力を入れてきており、超氷河期とも言われる昨今の就職難のなかで、自家・農業法人などへの就農、秋田県立大学、弘前大学への編入学やアメリカでの専門研修、農協などの農業団体、農業関連企業等への就職で9割を超える学生の進路が既に決定しており(2月初旬現在)、数名の進路決定に今少しといった状況となっております。

先般、平成17年度に県財政の緊迫化により凍結となっておりました実習施設整備最後の水田圃場移転が、本年度2月補正予算により実施できるという朗報が飛び込んで参りました。工事は今年中の完工を予定しており、年度末を控え同窓生の皆様方にもお知らせできることを大変ありがたいと考えております。

終わりに、同窓会会員の皆様のご多幸をお祈りし、本校の教育活動に更なるご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

### ◆ 支部便り ◆

平成23年度は、3月11日の東日本大震災と4月7日の余震などで、例年4月下旬に開催していましたが6月24日(金)に開催しました。総会の中で役員改選が行われ、永年会長としてご尽力いただいた伊藤寛さんが退任され、新会長に紫波支部長の阿部時男さんが選任されました。支部でも3支部で支部長さんが交替されましたので、今回の支部便りでは、新しく支部長さんになられた方々を紹介することにしました。



### 北上支部

#### 活動できる体制整備に

支部長 及 川 誠

北上支部は、北上市出身同窓生383人、西和賀町同窓生96人の支部であります。

前同窓会長の伊藤寛氏から支部長を引き受けたのですが、何から手がければ良いのか解らずの状態です。そこで、支部役員体制を整備することになり、河東地区(北上川より東側)、河西地区(北上川西側)、江釣子地区、和賀町地区、西和賀地区それぞれ2名の役員を選出し、各地区

同窓生の現況調査を実施し、活動出来る体制整備をしようと考えております。

出身同窓会のメンバーは、農業の自営はもちろんのこと、農業関係団体の幹部のほか、多種多様な産業で活躍されております。

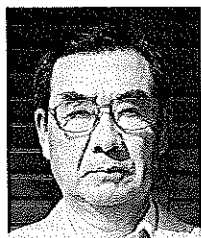
「半農半X（エックス）」と言う言葉があります。これは、「持続可能な農ある小さな暮らしをしつつ、天の才（個性や能力、特技など）を社会のために生かし、天職（X）を行う生き方」として、京都の塩見直紀氏が提唱しているものです。

「半農半X」は「田舎暮らし」の事ではないようで、ここで言う「農」は「農家になる」「農業で食っていく」のではなく、農が暮らしの中にあること、農を意識して生きていく、その生き方を提唱しているのです。

「半」は二分の一のことではなく、耕作面積の広さでも

なく、農業に費やす時間でもありません。暮らしのなかに農の視点を持つことで、「いつかは終わる生命体である自分」を意識することになり、それがひいては食料問題や環境問題の解決につながる、という考え方です。まさに、我が農大同窓生は、「半農半X」そのものではないでしょうか。

専業農家は「半農半農」であります。兼業農家や農地を全部委託した農業者は、草刈りだけとか、自家菜園とか、産直野菜とか、花壇づくり等、ちょっとだけ農をしながら、自分の天職（会社員、事務員、大工、塗装業、介護、内職などなど…）を全うする仲間です。農を意識し、食料問題や環境問題を考えながら地域づくりに貢献する仲間です。そんな「半農半X」の皆さんと、年に一度でも二度でも交流懇談出来ればと考えながら、組織の体制づくりに頑張っております。



## 奥州支部

### 同窓会奥州支部の近況について

支部長 千葉 幸一

新しい年を会員の皆様はどのような気持ちで迎えたでしょうか。「今年は穏やかに希望の持てる年であって欲しい」と願うのは私だけではないでしょう。

さて、私は昨年の奥州支部総会で支部長に選出されました千葉幸一であります。原稿依頼がありましたので、所見を述べさせていただきます。

奥州支部は、奥州市・金ケ崎町からなり農業大学校が管内にあって、いわゆる地元という恵まれた支部であります。

事務局から頂いた同窓会名簿によりますと、管内の会員数は1,002名で、古くは大正時代に農業試験場練習部を卒業された方から、現在の農業大学校の卒業生まで90年の

歴史を数えます。勿論、会員の活躍は各般にわたっていることは申すまでもありません。

奥州支部の活動については、特筆するものではありませんが、目的である「会員相互の親睦交流をはかり、地域の産業・文化の向上に寄与し、併せて農業・生活の改良に必要な知識・技能の啓発に努める」ことを達成するため、総会・交流会の開催や農業大学校主催行事への参加を行っております。

組織としては、幹事・代議員を各地域ごとに設けております。総会出席者は定年退職者等の高齢者が殆どであることから、毎年「若い会員の出席はどうすれば」が話題となり、このことが現役員の課題であります。

さて、大学校の現役学生の活動や論文を見るたび感心し感銘を受けております。海外研修や昨年の被災地での活動、そして学内等での研究と大変な活躍であります。

この若者達が岩手、いや日本の農業を担うことになるならば、私は安心して後方支援したいと考えています。大いに期待したい!!



## 二戸支部

### 今、地域の農業は

支部長 高崎 覚志

昨年の東日本大震災で被災された方々には心よりご冥福とお見舞いを申し上げ、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

二戸支部は、平成18年8月に総会を開催し、二戸支部と軽米支部が統合して二戸支部となり現在にいたっております。同窓会会員数は846名を数え、地域は二戸市・一戸町・軽米町・九戸村で、自営・農協関係・会社員・公務員・地

方議会議員と色々な業種で活躍されております。

今、各地域では少子高齢化が進み、特に農業に従事している方の高齢化が著しく進んでいます。担い手が少なく、耕作放棄地や遊休地が増えて問題となっており、各市町村では色々な支援施策を行っていますが、なかなか成果が上がっておりません。新規就農者の育成やプロイラー、野菜等の価格補償事業・無利子資金融資などを実施して、農業従事者にやる気と担い手作りの支援を行っております。また、地産地消の取り組みとして、安心安全のため学校給食に食材を提供したり、産直施設に農産物等を出荷し、自分で作ったものを自分で価格を決めて販売して現金収入を得て年々売り上げが向上してやる気満々の会員もおります。そういう農業従事者の方が増えていくことにより、耕作放棄地や遊休地を借り受けて生産出来れば、耕作放棄地・遊

休地の問題が少しでも解消されるわけです。

農水省では、担い手確保と農地集積の対策強化として、「人・農地プラン」の作成を推進し、担い手の確保・育成と農地集積を促し、平地で20～30ha規模の経営体が8割を占める土地利用型農業の実現に向けて対策を強化するとしています。青年新規就農者に給付金を支給し、農地を提供する者にも協力金を交付する。現在農業青年新規就農者年間1万人の就農定着を目指しているが、12年度は年間2万人の就農者定着を目指すとして計画されていますが、耕作放棄地や遊休地の解消になるので、良いことであり、農業の活性化につながっていくことを望みます。

農業にやりがいが出てくれば、農業の担い手も増え農業大学校に入学する学生も多くなると思います。同窓会員も地域で頑張りますので、農業大学校在校生も将来の担い手

として知識を最大限吸収していただきますことと、農業大学校の益々のご発展をご祈念申し上げます。



九戸村産直販売所「オドデ館」

# 平成23年度岩手県立農業大学校同窓会総会報告 (抜粋)

開催日 平成23年6月24日(金) 開催場所 農業研修館

## 1. 平成23年度事業計画・実績

- (1) 支部活動の促進
- (2) 同窓会会員台帳の整備
- (3) 同窓会会報の発行 平成24年3月上旬 1,000部
- (4) 農業大学校卒業生(直近5年間)交流への支援
- (5) 農業大学校事業支援
  - ①農大祭への支援 平成23年10月29日(土)～30日(日)
  - ②農業創造シンポジウムへの支援 平成23年12月2日(金)
  - ③本科2年生52名の海外派遣研修支援  
平成23年9月5日(月)～12日(月)、アメリカ合衆国カリフォルニア州
  - ④高校生対象の「緑の学園」事業支援  
第1期 平成23年7月28日(木)～29日(金) 32名  
第2期 平成23年8月2日(金) 31名
- (6) 農業大学校同窓会全国連盟総会への参加  
平成23年7月12日(火) 東京
- (7) その他  
平成23年度新入生初エントランス 平成23年4月15日(金)  
平成23年度卒業式 平成24年3月8日(木)
- (8) 役員会・総会  
役員会及び総会 平成23年6月24日(金)

## 同窓会役員名簿(平成23年～24年)

役職	氏名	支部	役職	氏名	支部
会長	阿部 時男	紫 波	理事	菊池 長助	遠 野
副会長	及川 誠	北 上	理事	岩城 明	久 慈
副会長	菊地 政男	宮 古	理事	高崎 覚志	二 戸
理事	竹鼻 邦夫	盛 岡	監事	千田 敏夫	北 上
理事	田村 忠	岩 手	監事	及川久仁江	奥 州
理事	藤原 勝栄	花 巻	事務局長	高橋 栄蔵	奥 州
理事	千葉 幸一	奥 州	顧問	川嶋 明澄	校 長
理事	槻山 隆	一 関			
理事	林田 勲	気 仙			

## 2. 平成23年度収支予算

収入総額 963,674 円  
 支出総額 963,674 円  
 差引残高 0 円

### 1) 収入の部

項 目	本年度予算額	前年度予算額	差引増減	摘 要
1 繰 越 金	93,474	385,612	△292,138	前年度繰越金
2 会 費	670,000	540,000	130,000	会費67名×10,000円
3 寄 付 金	0	0	0	
4 雑 収 入	200	400	△200	預金利子等
(緑の学園)	200,000	200,000	0	農業公社より
合 計	963,674	1,126,012	△162,338	

### 2) 支出の部

項 目	本年度予算額	前年度予算額	差引増減	摘 要
1 総 務 費	130,000	190,000	△60,000	
1) 事 務 費	30,000	30,000	0	切手・振込手数料
2) 会 議 費	100,000	160,000	△60,000	総会、役員会
2 負 担 金	90,000	90,000	0	後援会費 30,000円 全国連盟 55,000円 東日本連盟 5,000円
3 活 動 費	580,000	580,000	0	
1) 支部活動費	90,000	90,000	0	支部当たり20,000円以内
2) 大会参加費	70,000	100,000	△30,000	全国連盟総会
3) 農大祭支援	30,000	30,000	0	
4) 農業創造シン	20,000	20,000	0	
5) 卒業生交流等	10,000	10,000	0	
6) 会報発行	55,000	55,000	0	同窓会会報
7) 湖沼農業研修支援	100,000	70,000	30,000	2年生の海外研修支援
8) 卒業生表彰	5,000	5,000	0	卒業生表彰(東日本連盟副賞)
(緑の学園)	200,000	200,000	0	
4 積 立 金	100,000	200,000	△100,000	
5 予 備 費	63,674	66,012	△2,338	
合 計	963,674	1,126,012	△162,338	

※ 特別積立金 300,000円(22年度会計分)